

## シラバス

指定番号 \_\_\_\_\_

商号又は名称：ぐっどケア株式会社 \_\_\_\_\_

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	○研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージをもっと実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスの理解	3.0	3.0	0	<講義内容> 介護保険サービスの理解（居宅・施設）、介護保険以外のサービス
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3.0	3.0	0	<講義内容> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ・視聴覚教材の活用 <演習実施方法> ・介護職の仕事内容について班体制を用いてグループディスカッションを行う。
(合計時間数)	6.0	6.0	0.0	
使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第一巻			

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 \_\_\_\_\_

商号又は名称：ぐっどケア有限会社 \_\_\_\_\_

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	○介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	5.5	1.5	3.0	<通信学習課題の内容> 人権と尊厳の保持 ・ノーマライゼーション ・個人の尊厳と法制度 <講義内容> ・尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、虐待の定義、 身体拘束、及びサービス利用者個人の尊厳と法制度 <演習実施方法> ・「事例検討」よりグループディスカッションを班体制で行う。
② 自立に向けた介護	1.5	0.5	2.0	<通信学習課題の内容> 介護における自立支援 ・ICFの考え方 ・介護予防について <講義内容> ・自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うこと の違い、自立という概念に対する気づきを促す。 <演習実施方法> ・班体制でロールプレイングを行う
③ 人権啓発に係る基礎知識	2.0	2.0	0	<講義内容> ・人権擁護への取り組み
(合計時間数)	9.0	4.0	5.0	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第一巻
------------	--------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 \_\_\_\_\_

商号又は名称：ぐっどケア有限会社 \_\_\_\_\_

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	○介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 ○介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとらえることができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、 専門性と多職種との連携	1.5	0.5	1.0	<通信学習課題の内容> 介護環境の特徴 ・地域包括ケアシステムの役割と機能 ・介護の基本視点 ・多職種との連携 <講義内容> ・家族による介護と専門職による介護の違い、 介護職に係わる 医療・看護との連携の必要性
② 介護職の職業倫理	1.0	0.5	0.5	<通信学習課題の内容> 介護サービスの公共性と職業倫理 ・利用者の自己決定の尊重 <講義内容> ・介護職員としての倫理の必要性・社会的責任 <演習実施方法> ・事例検討によるグループワーク
③ 介護における安全の確保 とリスクマネジメント	1.5	1.0	0.5	<通信学習課題の内容> 介護における安全の確保 ・高齢者の3大事故について ・リスクマネジメント <講義内容> ・生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスク <演習実施方法> 「リスクマネジメント」について、グループディスカッション
④ 介護職の安全	2.0	1.0	1.0	<通信学習課題の内容> 健康管理とストレスマネジメント ・介護職の健康管理 <講義内容> ・介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、それらに対する介護職員の健康管理
(合計時間数)	6.0	3.0	3.0	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第一巻
------------	--------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。  
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。  
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。  
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。  
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

**記載例／ 実習を実施する場合又は視聴覚教材を活用する場合**

## シラバス

指定番号 \_\_\_\_\_

商号又は名称：ぐっどケア株式会社 \_\_\_\_\_

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	○介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	3.5	0.5	3.0	<通信学習課題の内容> 介護保険制度 ・介護保険制度の基本的仕組み ・要介護、要支援の認定 <講義内容> ・介護保険制度創設の背景及び目的、動向、介護保険制度の仕組み、介護保険制度を支える財源・組織・団体の機能と役割
② 医療との連携と リハビリテーション	2.5	0.5	2.0	<通信学習課題の内容> 医行為と非医行為 <講義内容> ・看護と介護の役割・連携、医行為と介護、リハビリテーションの理念 <演習実施方法> ・血圧・脈拍測定などのバイタルチェックを行う
③ 障害者自立支援制度および その他の制度	3.0	0.5	2.5	<通信学習課題の内容> ・障がい者自立支援法 <講義内容> ・障がい者自立支援制度の意義と役割、個人の権利を守る制度
(合計時間数)	9.0	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第一巻 血圧計
------------	---------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス

指定番号 \_\_\_\_\_

商号又は名称：ぐっどケア有限会社 \_\_\_\_\_

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	○高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとるべき（とるべきでない）行動例を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護における コミュニケーション	3.5	1.5	2.0	<通信学習課題の内容> 介護におけるコミュニケーション <講義内容> ・介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割。 コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション。利用者・家族とのコミュニケーションの実際。利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 <演習の実施方法> ・グループで利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション演習を行う。
② 介護における チームのコミュニケーション	2.5	1.5	1.0	<通信学習課題の内容> チームにおけるコミュニケーション <講義内容> ・記録における情報の共有化、報告、コミュニケーションを促す環境 <演習の実施方法> ・グループで利用者の観察・記録・情報伝達演習を行う。
(合計時間数)	6.0	3.0	3.0	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第一巻
------------	--------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス

指定番号 \_\_\_\_\_  
商号又は名称：ぐっどケア有限会社 \_\_\_\_\_

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	○加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴	3.0	1.5	1.5	<通信学習課題の内容> 老年期における感覚、知覚 <講義内容> ・老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響 <演習実施方法> ・グループで事例検討
② 高齢者と健康	3.0	1.5	1.5	<通信学習課題の内容> 高齢者に多い疾患 <講義内容> ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 <演習実施方法> ・事例検討によるグループワーク
(合計時間数)	6.0	3.0	3.0	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第一巻
------------	--------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス

指定番号 \_\_\_\_\_  
商号又は名称：ぐっどケア株式会社 \_\_\_\_\_

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	○介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く環境	1.0	0.5	1.0	<通信学習課題の内容> 認知症ケアの理念 <講義内容> ・認知症ケアの理念、パーソンセンタードケア
② 医学的側面からみた 認知症の基礎と健康管理	2.0	1.0	0.5	<通信学習課題の内容> 認知症の基礎知識 <講義内容> 認知症の定義、診断基準など、認知症についての基礎知識 <演習実施方法> ・事例検討によるグループワーク
③ 認知症に伴うこころと からだの変化と日常生活	2.0	1.0	1.0	<通信学習課題の内容> 認知症に伴うこころとからだの変化 <講義内容> ・認知症の中核症状・行動・心理症状、認知症の方への対応
④ 家族への支援	1.0	0.5	0.5	<通信学習課題の内容> 家族介護者への支援 <講義内容> ・介護負担の軽減
(合計時間数)	6.0	3.0	3.0	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第一巻
------------	--------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

# シラバス

指定番号 \_\_\_\_\_  
商号又は名称：ぐっどケア有限会社 \_\_\_\_\_

科目番号・科目名	(8)障害の理解			
指導目標	○障がいの受容のプロセスを学び、介護職の役割を考える。 ○障がい別にみる症状、行動、支援を学ぶ。 ○家族の心理の一般的過程、家族の負担とその要因、家族支援の概要を学ぶ。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障害の基礎的理解	1.0	0.5	0.5	<通信学習課題の内容> 障がいの概念 ・ ICF、ICDH <講義内容> ・ 障がいの概念と ICF の考え方、障がい者福祉の考え方
② 障害の医学的側面, 生活障害などの基礎知識	1.0	0.5	0.5	<通信学習課題の内容> 身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者・言語障がい者 視 覚障がい者・発達障がい者・学習障がい者 <講義内容> ・ 身体障害、知的障害、精神障害、それぞれの心理・行動・特 徴と支援
③ 家族の心理, わり支援の理解	1.0	0.5	0.5	<通信学習課題の内容> 家族の心理とかかわりかた <講義内容> ・ 家族の負担と支援
(合計時間数)	3.0	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第一巻
------------	--------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。



## シラバス

指定番号

商号又は名称：ぐっどケア有限会社

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	4.0	3.0	1.0	<通信学習課題の内容> 介護の基本的な考え方 ・理論と法的根拠に基づく介護 <講義内容> ・理論 ・法的に基づく介護 <演習実施方法> ICF の活用法
② 介護に関する こころのしくみの基礎的理解	4.0	3.0	1.0	<通信学習課題の内容> 高齢者の心理 ・加齢に伴う変化とその心理 ・自己実現と生きがいづくり <講義内容> ・学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響
③ 介護に関する からだのしくみの基礎知識	4.0	3.0	1.0	<通信学習課題の内容> 人体の名称とはたらき ・運動動作に関する基礎知識 <講義内容> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経と体性神経に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、こころとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気づく視点
④ 生活と家事	4.0	3.0	1.0	<通信学習課題の内容> 家事援助の介助方法 <講義内容> ・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援 <演習の実施方法> ・DVD 鑑賞・ベッドメイキング
⑤ 快適な居住環境整備と介護	4.0	3.0	1.0	<通信学習課題の内容> 住環境整備 <講義内容> ・快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者、障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 <演習の実施方法> ・DVD 鑑賞 福祉用具の使用法
⑥ 整容に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	7.0	6.0	1.0	<講義内容> ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術 <演習の実施方法> ・DVD 鑑賞 衣類の着脱、口腔ケア、洗面、爪切り

⑦ 移動・移乗に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	7.0	6.0	1.0	<講義内容> ・移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者 ・介助者にとって負担の少ない移動 ・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援 方法、移動と社会参加の留意点と支援 <演習の実施方法> ・DVD 鑑賞 体位・姿勢交換、移乗の介護、移動の介護
⑧ 食事に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	7.0	6.0	1.0	<講義内容> ・食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 <演習の実施方法> ・DVD 鑑賞 食事の介護
⑨浴・清潔保持に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	7.0	6.0	1.0	<講義内容> 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 <演習の実施方法> ・DVD 鑑賞 入浴の介護、全身清拭、陰部洗浄、手浴・足浴、洗髪
⑩排泄に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	5.0	4.0	1.0	<講義内容> ・排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽やかな排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 <演習の実施方法> ・DVD 鑑賞 トイレ介助、ポータブルでの排泄介助、おむつ交換
⑪睡眠に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	7.0	6.0	1.0	<講義内容> ・睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 <演習の実施方法> ・体位姿勢交換
⑫死にゆく人に関連した こころとからだのしくみと 終末期介護	3.0	2.0	1.0	<講義内容> ・終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援 <演習の実施方法> ・臨終が近づいた時の兆候と介護
① 介護課程の基礎的理解	4.0	4.0		<講義内容> ・介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチ <演習の実施方法> ・アセスメント、介護計画書に基づいて介護過程の演習
② 総合生活支援技術演習	8.0	8.0		<講義内容> ・生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得をめざす。 <演習の実施方法> ・グループで2事例を挙げ、支援技術の検討⇒演習
(合計時間数)	75.0	63.0	12.0	

使用する機器・備品等	介護ベッド、クッション、車椅子、簡易浴槽、シャワーチェア、入浴台、食事用自助具、オーバートイレ、尿器、差し込み便器、ポータブルトイレ 中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第二巻
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

# シラバス

指定番号 \_\_\_\_\_  
商号又は名称：ぐっどケア株式会社 \_\_\_\_\_

科目番号・科目名	振り返り			
指導目標	①研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだ事について再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	2.0	2.0		<講義内容> ・研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶこと、根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等） <演習の実施方法> ・グループワークにて研修で学んできたことを再確認
② 就業への備えと研修修了後における事例	2.0	2.0		<講義内容> ・継続的に学ぶべきこと、研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所における事例を紹介
(合計時間数)	4.0	4.0		

使用する機器・備品等	中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第一巻 中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 第二巻
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。